

担い手の定着に向けて現地講習会を開催

1. 協定締結の経緯

当集落では、生産組合が4組織あり、作業の共同化・効率化を図ってきたが、市内の水稲作付地では最も標高が高く、営農条件は極めて不利であった。

このような中で直接支払制度が発足し、制度の目的でもある農用地の保全、共同取組活動を通じての農家の意識の向上を図るとともに、若手農家を育成することにより、当集落の将来像を形成するために、本制度を導入することとなった。

2. 取り組みの内容

対象農用地以外の耕作者も参加して農地保全管理組合を組織し、協定内容及び組合の規約に沿って、地域全体の農地の適正保全を目標として取り組んでいる。

また、農協及び普及センターの指導により講習会を開催し、水稲を始めとした農作物の生産技術習得に努め、品質向上と生産意欲の向上を図り、担い手の定着に努めている。

その他、農道及び集落道沿いの草刈、並びに崩壊等で傷んでいる水路の補修やU字溝の敷設作業を行ったほか、近隣集落と共同で維持管理を行い、農業用水の安定確保に努めた。



生産技術習得の講習会の開催

集落協定の概要

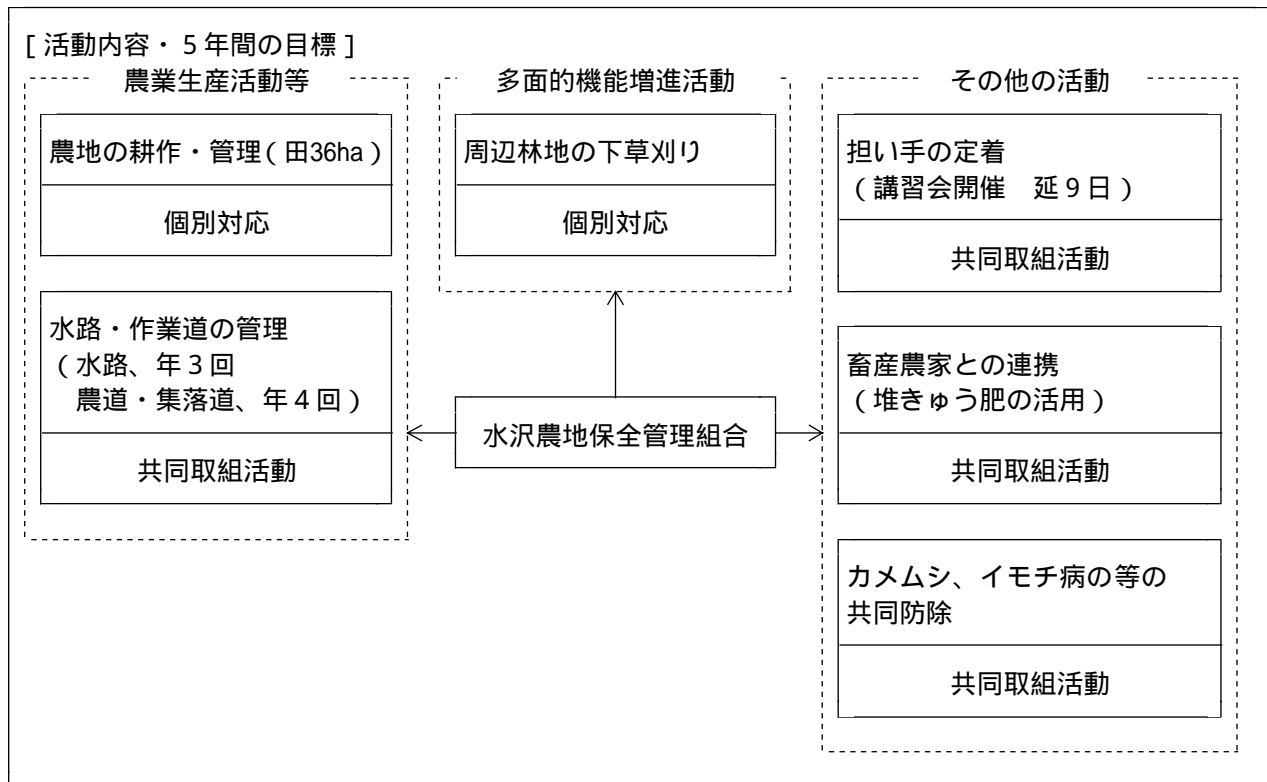
市町村・協定名	秋田県鹿角市 <small>かつのし</small> 水 <small>みずさわ</small> 沢農地保全管理組合			
協定面積 36ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲、一般野菜、牧草	-	-	-
交付金額 756万円	個人配分			43%
	共同取組活動分 (57%)	農地法面、農道、水路の点検等		28%
		多面的機能増進活動(周辺林地の草刈)		12%
		生産性向上・担い手定着(講習会の開催)		12%
		協定役員に対する報酬		5%
協定参加者	農業者 38人、水沢農地保全管理組合(構成員45人)			

3. 取り組みによる効果

集落全戸が参加することで全体の協調性が高まり、共同作業への積極的な参加が見られたほか、農家個々の農地に対する関心度が高まり、集落の農地を自分達で守るという意識が強くなり、生産意欲の向上にもつながっている。

また、寒冷地における水稲の品質向上や病虫害対策に効果が見られた。

活動内容の概要



[平成14年度までの主な効果]

非対象農家も参加し、地域全体の管理が行き届いた。
水路の補修、U字溝の敷設により農業用水の水量確保。
共同防除の実施により病虫害の被害が最小限に抑えられた。